

0-8

コロナ禍における安全な研修会の開催 —各研修の目的や内容に応じて—

○円谷 亮二、廣瀬 紗彩、豊田 訓子、
梅田 奈津美、江口 啓子、飯村 礼華、
斎藤 裕、永井 睦子、早田 美穂、
井上 宗典、仁戸部 富恵、種市 洋

獨協医科大学 SD センター

令和元年度、SD センターでは本学の教職員を対象として、延べ35回の研修会を実施し、延べ4,219人の人材育成に寄与した。令和2年度も同規模の研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により上半期の予定は一部を除いて延期・中止とした。

その中で、令和2年度上半期は感染防止対策を施した上で「看護師特定行為研修」「RQI」「教育訓練給付」「iMedy」の事業に専念しつつ、下半期に予定している研修会が安全に開催できるように更なる感染防止対策を整備した。

令和2年度下半期は、上半期に計画されていた延期となった研修会と併せて、当初より下半期に計画されていた講習会を安全に開催しているので、その中から「JMECC」「BLS」「実習指導者講習会」「教育セミナー」の事業についての取り組みを報告する。

0-9

コロナ禍における本校の取り組み

○宇佐見 規子
教職員一同

獨協医科大学附属看護専門学校

平成30年度、かねてからの念願であった無線LANの整備を行い、令和2年度入学生から電子書籍化とし、ICT係を中心に電子書籍を有効活用した教育方法に取り組むことを基本方針の一つとしてあげた。

この度の新型コロナウイルス感染症の拡大により、新年度開始と同時に必然的に遠隔授業に取り組むこととなり、授業としての講義・演習・実習をどのように運用・管理していけばよいか、感染防止対策とともに大きな課題となった。情報基盤センターをはじめ関係する多くの方々のご指導・ご協力のもと進めることができた。

今回、教務関係・学生生活関係等全般についてその取り組みの実際を振り返ることで、改善点並びに課題を見出し次年度に活かすことを目的に報告する。